

本校の教育相談についての取り組みを紹介します。是非ご利用ください。

特別支援教育コーディネーターと発達支援センター

本校には、保護者からの相談窓口として特別支援教育コーディネーターが2名おります。

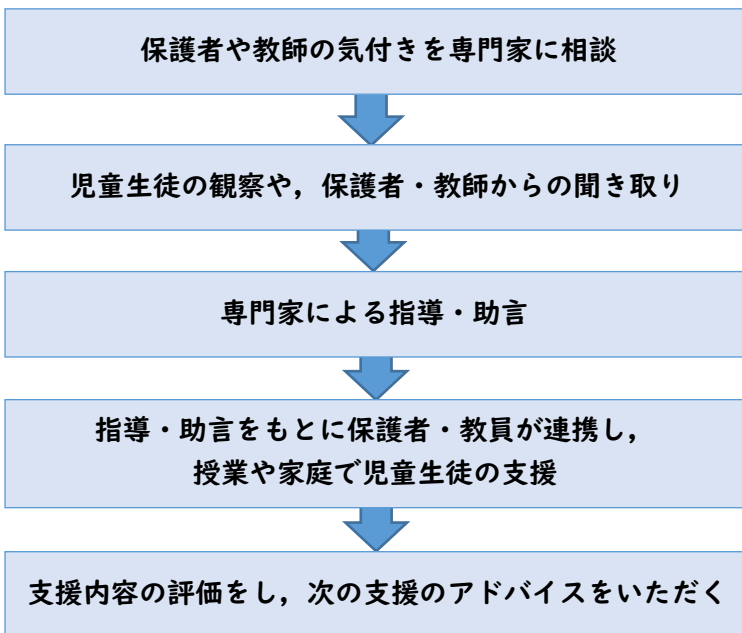
お子様の生活の様子で気になることがありましたら、相談に応じたり、関係機関との連絡調整をさせていただいたりしますので、特別支援教育コーディネーターにぜひご相談ください。ご相談がある場合は日程調整をさせていただきますので、学校 088-653-0151 (十川) にご連絡ください。

また、発達支援センターでは、幼児児童生徒の可能性を最大限に延ばすとともに、自立と社会参加に必要な力を培うための適切な指導・必要な支援について考えていきたいと思っております。お困りのことがありましたらお子様の送迎時でも結構ですので発達支援センターに相談にお越しください。

外部専門家との連携事業

医療・療育・福祉・学術等の専門家を活用した取り組みを行っています。医療では鴨島病院の理学療法士や作業療法士に来ていただき、専門的な指導・助言を受けています。今年度も、5月15日、25日に来校し、全般的な子どもたちの様子や注意点、姿勢についてなどの話をしていただき、教員の専門性を高めることができました。教えていただいたことを、子どもたちの指導に活かしていきたいと思っております。また、体のことや、動作のことでご質問のある保護者の方は、担任や特別支援教育コーディネーターにお声かけくだされば、専門家にお聞きすることができます。

専門家（医療）の活用の流れ



専門家

理学療法士 (PT)

「座る」「立つ」「歩く」など基本動作の専門家です。

作業療法士 (OT)

「食事」「着替え」などの日常生活に必要な作業（動作）の専門家です。

「ボタンの留め外しができるようにしたいです。」

「椅子に座るのが苦手なのですが。」



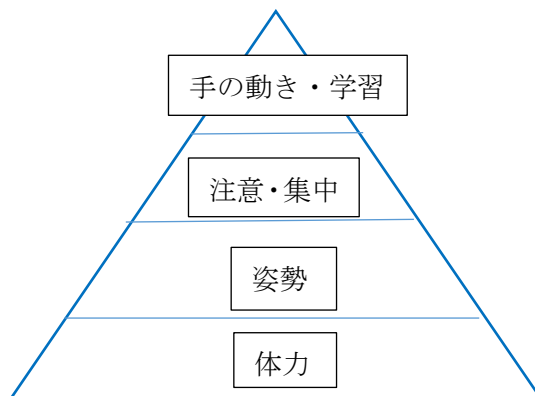
児童生徒、教職員、そして保護者の皆様と共に学び、連携・協働し、成長していくことができるように、専門家の活用を進めていきたいと思っております。

理学療法士・作業療法士のお話より



一部をご紹介します。

体の筋力がついて、姿勢を保つことができ、手足の動きができるようになって、物の操作ができるようになってくる。そこに、集中力、心理的な安定が備わって、学習が進むようになる。



ご家庭でお手伝いをしてもらうことでも体力をつけることができます。

無理をせず、姿勢を意識して、楽しむ要素を取り入れ、けがをしないようにしましょう。

粗大運動としては、手で支える練習（机・椅子を運ぶなど）と力を入れ続ける練習（台車を押す、雑巾がけをする、ウォーキング、マラソンなど）が大切。

座るときには、足を床につけて座ることが大切。椅子や机の高さを調整する。



姿勢を保つことは筋力や集中力が必要。15分ぐらいでストレッチをするなど、気持ち切り替えたり、体の疲れをとったりすることも大事。

すべり止めを椅子に貼ることで、姿勢を保つサポートとなる。

よくかんで食べることで、すぐに寝転がるのを止めることも、よい姿勢に深く関係している。